

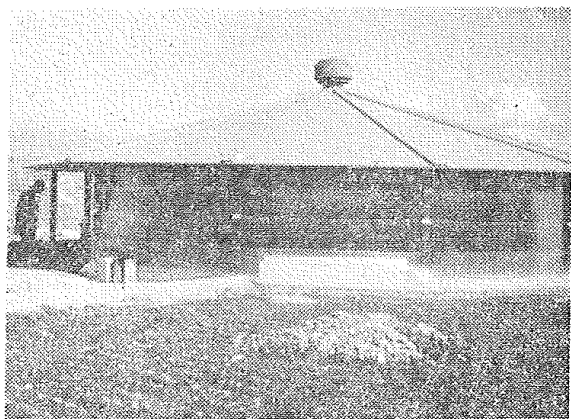
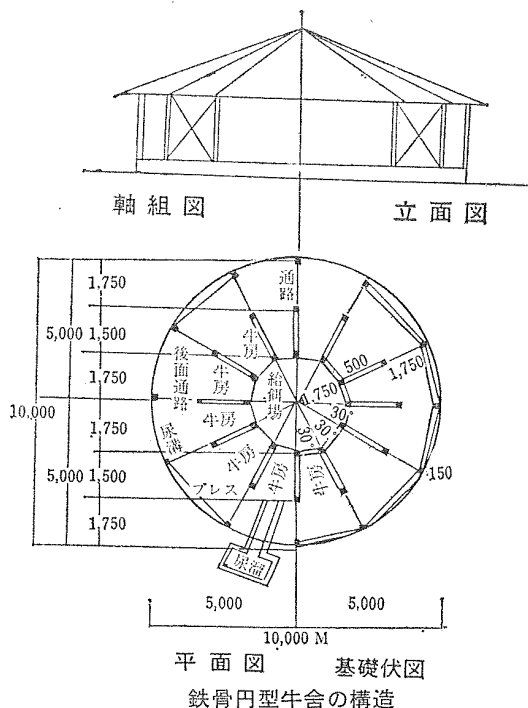
# 目でみる和牛

## 鉄骨円型牛舎現地視察

最近の食肉需要の増大により、和牛肥育が今後畜産の中でも国際市場に対して一番強いと言われている。経営的に容易なこと、即ち投下資本が少なく危険がない点、自給飼料の利用度の高い点、省力化が可能な点等の有利性が確認されてきた。今迄の和牛肥育は鳴物入りの宣伝が行なわれなかったが、最近、他の畜産に匹敵する経営形態に変わりつつある。多頭飼育に併せて畜舎の改良が急務となった。その意味で他県の一例を紹介したい。

『岡山県標準畜舎』を近々具体化し発売する予定。

昨年より、県総合畜連、県畜産会で推め、本県畜産関係機関の最高権威者で構成した『畜舎設計委員会』において約1カ月に亘り作成されたもので、この畜舎も具体化し、近々発売される段階になったので、畜産農家のご期待を願う次第である。



円型牛舎全景



円型牛舎内部

兵庫県の円型牛舎は、兵庫県畜連において作成したもので、三木市志染農協、加古郡天満農協等に建築されている。(写真参照)

### よい点として次の項を上げている

- (1) 工費が安い
- (2) 建築が早い
- (3) 強い
- (4) 通風採光がよい
- (5) 衛生的である
- (6) 省力管理が出来る

### 現地を見て問題であると思つた点

- (1) 工費が少々高くついている
- (2) 飼槽について集合されており、飼料給与に省力的であるが、濃厚飼料主体の場合にはよいが、これからの粗飼料の利用を高めるには問題がある
- (3) 土地利用はよいが、一方余間地が出来る点
- (4) 牛舎が円型であることで、建築資材に無駄ができ、工事についても手間がかかる点等、一般農家の施工に問題がある様に思われる